

# 経済学からみた職務発明制度の 現状と課題

東京大学大学院経済学研究科  
柳川範之

# どうやってイノベーションを起こすか

- \* 日本全体にとっても、全体としていかにイノベーションを引き起こし、Win-Winの関係を実現させるかを考える必要がある。
- \* 使用者・従業員にとって透明性・予測可能性の高いルールをつくりあげていくことはメリットがあり、また、イノベーションを促進させる。
- \* 発明のインセンティブ(やる気、モチベーション)をいかに引き出すかが重要

# どうやってイノベーションを起こすか

- \* 報酬規定は、使用者対従業者間の問題としてとらえられがち。だが、実は、従業者間の問題である。
- \* 開発成功者への高報酬は、開発失敗者への低報酬を招く可能性。それは、報酬変動リスクが高くなることを意味しており、従業者にとってもマイナス。
- \* 本来は、給料や賞与も含め従業者のトータルの受取を考えるべき。そのうちの発明の報酬だけを規定することの限界。

# どうやってイノベーションを起こすか

- \* 職務発明は、使用者側も発明を生み出す活動に参加している。だから、使用者側のインセンティブ（やる気、モチベーション）を以下に引き出すかも、重要な側面。
- \* 訴訟は、成功後に起こされる。そのため、裁判所は事後的に得られた情報に基づいて判断しがち。本来は、事前の段階での予測や契約がどうなっているかを考慮すべき。